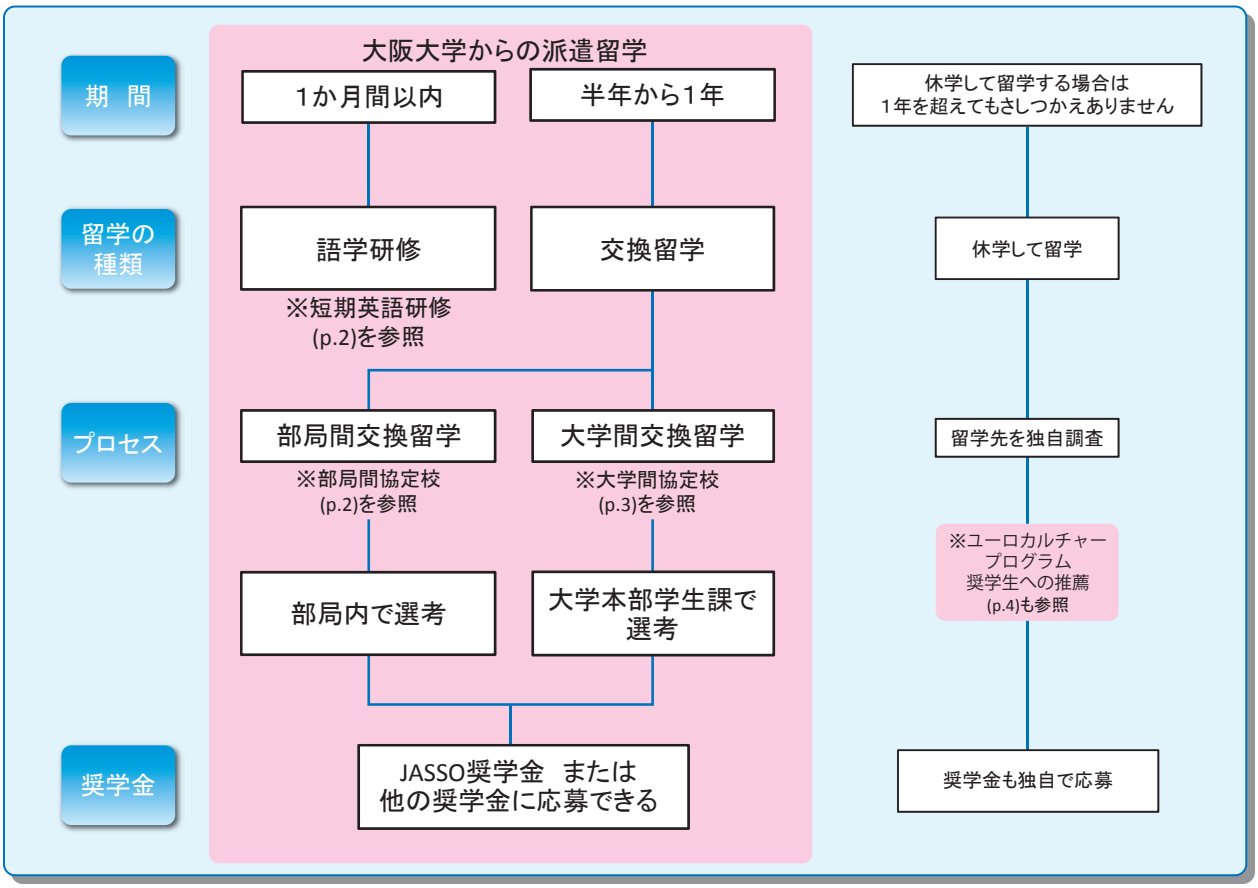
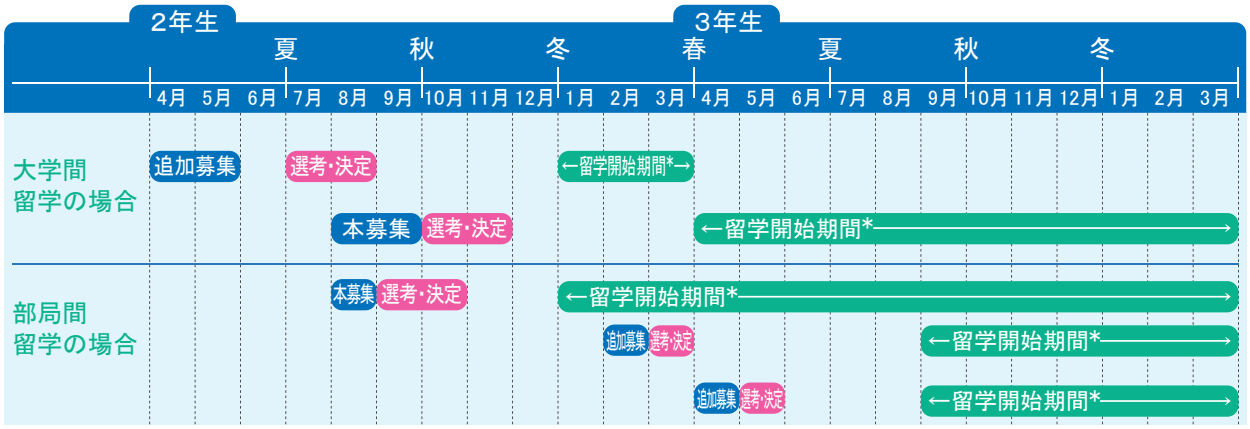
留学のチャンスを活用しましょう！

大阪大学では学部生・大学院生の海外留学を推奨しています。
このパンフレット掲載の情報は、**文学部・文学研究科のホームページ**でご確認いただけます。
文学部・文学研究科 HP » 国際交流　http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international



タイムライン



*留学開始時期は受入大学の学期開始時期による

A. 留学情報　役に立つ説明会が実施されています

★ **海外留学オリエンテーション（入門編）**（国際学生交流課主催）4月末に各キャンパスで開催。
語学研修、国際交流科目などについての説明があります。

★ **「大学間交換留学オリエンテーション」**（国際学生交流課主催）5月から6月にかけて、各キャンパスで開催。
交換留学（大学派遣）についての説明があります。

★ **「文学部・文学研究科　留学説明会」** 5月開催。
文学部・文学研究科の交換留学、語学研修の体験談、留学の応募から出発前の準備の様子などを紹介します。
☆パンフレット「海外留学にチャレンジしてみよう！」
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html

留学の種類と語学研修

★短期英語研修　［数週間程度］夏休みや春休みに英語研修が実施されています。

プログラム名	募集時期（2018 年度情報）	実施時期（2018 年度情報）
エセックス大学　夏季語学研修プログラム *	4 月上旬から 4 月下旬	8 月下旬～9 月下旬（5 週間）
グローニンゲン大学 短期訪問プログラム *	4 月中旬から 5 月上旬	8 月中旬～9 月初旬（17 日間）
オタゴ大学 夏季語学研修プログラム *	3 月下旬から 5 月中旬	8 月下旬～9 月下旬（31 日間）
モナシュ大学 春季語学研修プログラム *	10 月中旬から 11 月上旬	2 月末～3 月末（1 ヶ月）

※「国際交流科目」として単位修得できるプログラム☆募集情報は大阪大学や文学部・文学研究科の HP、KOAN でご確認ください。

★交換留学　交流協定校へ 1 学期以上、1 年未満の期間での留学

- ✓ 交換留学制度を利用する場合、大阪大学を休学することはできません。「留学」という身分になります。
- ✓ 留学中は大阪大学の学費を本学に納入します。多くの場合、留学先大学へ授業料を支払う必要はありません。
- ✓ 留学先で取得した単位は、所定の手続を経て大阪大学で取得した単位として認められることがあります。
- ✓ 英語力は TOEFL iBT79 ～ 80 以上、IELTS 6.0 以上が目安です。イギリスの大学への留学には IELTS for UKVI 6.0（各セクション 5.5 以上）以上のスコアが必要です。

1．交換留学（部局間）　文学部・文学研究科は以下の大学と学生交流協定を結んでいます。

イギリス	マンチェスター大学	人文学部
	イーストアングリア大学	
ポーランド	クラクフ　ヤゲロニアン大学	ヨーロッパ研究所
ドイツ	ハイデルベルク大学	日本学研究所
	ゲッティンゲン大学	社会科学部
台湾	国立台湾師範大学	文学院
		国際与社会科学学院
イタリア	ウーディネ大学	法学部
チェコ	プラハ　カレル大学 * 院生のみ	哲学部
	オロモウツ　パラツキー大学	文学部
スウェーデン	ウプサラ大学 (修士・博士前期のみ)	神学部
オランダ	グローニンゲン大学	人文学部
韓国	建国大学 * 院生のみ	
フランス	パリ・ディドロ大学	

交換留学（部局間）の募集・選考予定は以下の通りです。* 大学によっては募集枠のない場合があります。

募集	**9 月～ 10 月上旬 (本募集)**	2 月 (追加)*	4 月 (追加)*
選考	**10 月上旬**	3 月	5 月上旬
留学開始	**翌年 1 月～翌々年 3 月**	9 月以降	9 月以降

2．交換留学（大学間）

大阪大学は世界各地の約 127 大学と交流協定を結んでいます。（2019 年 2 月現在、大学 HP 参照）
◆文学部・文学研究科の学生が海外留学のために利用できる交流協定には下記の 2 種があります。

募集締切	5 月下旬頃	9 月下旬頃
学内選考・面接	7 ～ 8 月	10 ～ 11 月
学内選考結果通知	8 月頃	1 月頃
留学開始	翌年 1 月～ 3 月	翌年 4 月～翌々年 3 月

B. 奨学金情報　（2018 年度実績）

(奨学金の募集条件等は変更される可能性があります。2019 年度に募集される奨学金情報は、順次、大学のホームページ、KOAN 等で案内されます。)
大阪大学 HP　»　国際交流・留学　»　大阪大学から海外留学したい方　»　留学助成制度
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/scholarship

1．独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）実施の奨学金

支給型・・・応募要件等を確認のうえ、文学部・文学研究科教務係に応募書類を提出してください。

協定派遣	学部・大学院の正規生（外国人留学生を除く） 3 ヶ月以上 12 ヶ月以内の交換留学	月額 10・8・7・6 万円 月額支給額は地域により異なる
大学院学位取得型	以下の全てを満たす者 ①申請時に本学学部・大学院に在学する正規生 又は最終学位を本学正規課程で取得した者 ②留学期間を通じ、勉学・研究進捗状況を定期的に評価する指導教員（原則、本学常勤教員）2 名を確保できる者 ③ JASSO が定める「応募者の要件」を満たす者	月額 89,000 円～ 148,000 円 (地域により異なる) 授業料 (上限 1 万米ドル)

他にも、貸与型の「第二種奨学金」（短期留学）・（海外）があります。
詳細は下記ホームページ (http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/) をご覧ください。

2．大阪大学の奨学金　未来基金グローバル化推進事業

応募要件等を確認のうえ、文学部・文学研究科教務係に応募書類を提出してください。

交換留学奨学金	学部・博士前期課程の正規生 交換留学（3 か月以上 1 年未満）	月額 5 万円
研究留学助成金	大学院生（正規生） 研究留学（3 ヶ月間以上１０ヶ月間程度）	往復渡航費：アジア地域 10 万円、その他地域 20 万円 奨　学　金：月額 10・8・7・6 万円（留学先による）

3．文学部の奨学金　教育ゆめ基金

交換留学する**文学部学生**を対象とした奨学金です。1 年に 2 回募集します。
文学部・文学研究科 HP　»　国際交流　»　海外留学・研修 »　交換留学（部局間）について

4．その他の奨学金

＊日本学生支援機構「海外留学の奨学金」のページ http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship_other/
＊「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～」
対象：学部・大学院に在籍する正規生 28 日以上 2 年以内（3 か月以上推奨）留学する者
支給額：月額 6 ～ 16 万円（経済状況や留学先地域による）

C. 外国語による授業

1．全学共通教育科目の外国語による授業
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/eng_course（英語開講授業リスト）

2．国際交流科目 全学の先生方が、その専門に応じて英語による講義を提供しています。

3．外国語による発信力を育成するための科目
“Basic Academic Skills for Humanities” “Introduction to Contemporary Japanese Studies” などの外国語によるアカデミックスキルを育成する授業を開講しています。

4．エラスムス・ムンドゥス英語授業 "Contemporary Japan in the Global Context"
10 月から 12 月に開講されます。(修士課程以上)

D. 語学能力について

英語の場合　各大学の必要要件を調べましょう。各セクションごとに足切り点がある場合もあります。

・TOEFL　アメリカやカナダなど北米の大学に応募する場合に一般的です。試験はコンピューターで4技能（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）を測定する試験です。

・IELTS　イギリスやヨーロッパ、オセアニア、アジア圏などで一般的に用いられます。特にイギリスの場合は、IELTS UKVIの指定がある場合もあるので確認しましょう。また、学生ビザ申請のための足切り点もあります。試験は筆記と、面接官によるスピーキングの面接があります。

英語以外の外国語の場合

当該外国語の語学能力試験のスコアの提出、もしくは大阪大学で行われている当該ネイティブ講師による語学能力を証明する文書の提出によって判断します。

国際連携室に置いてある試験対策用の参考書も貸し出しできます。

★正規留学　学位取得を目指し、国外の大学や研究機関へ留学

▼エラスムス・ムンドゥス修士課程への留学　ユーロカルチャープログラム奨学生への推薦

EUが運営するErasmus Mundusプログラムのひとつに、ユーロカルチャー (Euroculture) があります。豊富なカリキュラムを通じ、現代ヨーロッパの文化・社会・政治について、EU圏内の大学で多角的に学べるプログラムです。

大阪大学文学研究科は同プログラムのパートナー校として、大阪大学の卒業生と大学院生の中から毎年若干名を推薦しています。2年間、EU圏内の以下の8大学のうち2校へ留学でき、修了後はその2校から修士号が得られます。詳細は文学部・文学研究科の関連ページ(**HP　»　国際交流　»　Erasmus Mundus**)をご覧下さい。

コンソーシアム参加校：グローニンゲン大学（オランダ）、ゲッティンゲン大学（ドイツ）、ウプサラ大学（スウェーデン）、ヤゲロニアン大学（ポーランド）、パラツキー大学（チェコ）、デウスト大学（スペイン）、ウーディネ大学（イタリア）、ストラスブール大学（フランス）

毎年10月に説明会を実施していますので興味のある方はご参加下さい。

11月に学内選考を行い奨学生候補を選出しています。

Erasmus Mundus Master of Arts EUROCULTURE

留学体験記

二度目のニュージーランド

文学部人文学科　1年　小坂梨乃
ニュージーランド オタゴ大学夏季語学研修プログラム （派遣時 学部1年）

私はまだアルファベットもろくに知らない時分に、ニュージーランドのオークランドでのホームステイプログラムに参加したことがありました。ジェスチャーでなんとか乗り切った一週間、英語力があればもっと楽しかっただろうと子供ながらに感じた後悔は、ずっと私の中に残っていました。だから留学説明会でオタゴ大学語学研修の募集を見つけたとき、「これだ！」と思いました。期間は4週間、ホームステイでの研修。リベンジにうってつけのプログラムではないか、と。英語の読み書きはそれなりにできるし、苦手なコミュニケーションも筆談やジェスチャーでなんとかなるだろうと安易に参加を決めました。しかし実際に語学研修が始まってみると、思った以上に英語が聞き取れない！ホストファミリーや現地の先生はゆっくりはっきり話してくれるので問題ないのですが、バスの運転手や町中の店員の英語は「ごく日常的な」ものです。基本的に早口で、訛りがあろうものならもうお手上げでした。それでも授業外で積極的に英語に触れるようにしていました。お店で注文をしてみたり、ホストファミリーの友人に会わせてもらってお喋りをしたり、同じく阪大からプログラムに参加した学生と旅行を計画したり、字幕なしで映画を観てみたり…。自分でも気付かないうちに耳が慣れてきてスムーズに会話ができるようになったと感じました。なまじ英会話力に自信がないままニュージーランドに飛び込んだので、4週間目にホストマザーの友人との昼食の席で「英語を学ぶために来ているの？もう必要ないと思うよ！」と（お世辞かもしれませんが）言ってもらえたときの嬉しさはひとしお深かったです。

このプログラムは英語“で”何かを学ぶのではなく英語“を”学ぶものなので、授業だけでなく4週間の生活の全てが糧になります。またオタゴ大学のあるダニーデンの町は毎日歩いても飽きることがなく、こういったプログラムにはぴったりです。参加を決めた暁には、どうか行動を躊躇わないでください。あなたが動けば動くほど、得られるものも確実に多くなっていくのです！

学生で計画したプチ旅行にて

同じクラスのみんなで夜ご飯を食べに行きました。

ゲッティンゲン留学を終えて

演劇学専修 4年 佐藤知果
ドイツ ゲッティンゲン大学 （部局間派遣、派遣時 学部3年）

直接的な演劇の勉強、というわけではなく、ドイツ語の習得と、漠然と（恥ずかしながら）社会学系の勉強ができればいいなと思ってゲッティンゲン大学に行ったのですが、実際社会学部でメディアスタディやユーロスタディに触れたことで、芸術が、私の場合は演劇が、ドイツという国で、またヨーロッパという制度においてどういう役割を果たしているのかということについて考え始める大きな転換点となった留学でした。やはり何かを考えたり、疑問を持ったりするためにはその只中に身を置くことがすごく大事で、人々の生活や感覚を肌で感じる必要があると思いました。そのような考えもあり、いろいろなことに気づき吸収するために終始アンテナを張って、あちこち動き回っていたように思います。また、今回日本を離れ、遠いところから日本という国を眺めることによって私たちが日本でどのような状況下に暮らしているのかということを客観的に見ることができたのも今回の留学で大きな要素となりました。私の中の視点という面だけでなく、周りの人たちがそれぞれの視点からどのように「日本」について考えているのかということを知る中で、今まで気づかなかった問題にぶつかることもありました。多様な価値の中に身を置いて、受け入れあいながら生きていくことの難しさを実感し、自分の中に凝り固まったものがあることに気がついたり、いろいろな側面から自分を相対視する良い機会になりました。

生活としては、特に不自由もなく、強いて言うなら日曜日にお店が開いていないのは大変でした。翌日が日曜日であることをうかうか忘れていると、日曜日には食べるものがなく、適当にあるものをつまむことになります。レストランなどに行けばいい話ではあるのですがそれも面倒だし、お金もかかるので、ドイツに留学される方は気をつけたほうがいいかと思います。

私が留学したゲッティンゲンという街は街全体が大学を中心に成り立っているような街で、街の人口の8割は大学関係者だと聞いたこともあります。この大学都市では若き日のビスマルクも学んでおり、旧市役所のある中心街を取り囲む形で建てられていた壁の上に彼が強制的に住まわされた小屋もあります。どうやら彼は相当なパーティー好きで夜な夜なパーティーを開いては大騒ぎをしていたため、街の中心から離れたこの小屋に隔離されたのだとか。何にせよ、大学都市なので治安はすごくいいですし、左翼の学生たちが管理人を追い出して占拠しているアパートがあったりと、大学時代ならではの自由な空気の流れている面白いところです。ただ、税関に荷物を受け取りに行く時に「この街なら大丈夫」と気を抜いていて、携帯をスられたので、自己防衛だけはしっかりと怠らないことをおすすめします。

ゲッティンゲン大学は留学生も多く、語学研修では世界中に友人ができました。彼らはとっても活発で元気なので、朝から夕方までの語学研修が終われば、夜に集まってほぼ毎日一緒にお酒を飲んで、また明日、というような日々でした。お酒の飲み過ぎでとうとう唇が痺れ出したので、1ヶ月が経った頃を目処にやめましたが、めいっぱい遊んで、勉強には真摯に打ち込む彼らの姿勢には感服させられることもしばしばでした。遊びといえば、大学構内でオフィシャルなパーティーがセメスターの始まりごとに開かれ、普段授業を受けている建物全体がクラブのダンスフロアのようになり、DJが朝まで皿を回していました。そんな大々的なパーティーが開かれた翌日にはもうすっかり片付けられていて普段通りに戻っている。このオンオフの切り替えの激しさは何なんだ、としばしば思っていましたし、この段取りの良さは何なんだ、としばしば感心していました。体力はかなり必要になってきますが、ヨーロッパの大学生の生活と気風を知る濃い経験になりました。留学生が多いという話に戻りますが、そのためゲッティンゲン内だとほとんどの場所で英語が通じます。特にマスターの授業は完全に英語で行われるため、マスターに来ていた友人たちは皆ドイツ語が全く話せないということもしばしばでした。私もドイツ語はからきしという状態で行ったのですが、到着した当日に地元のお惣菜屋さんのようなところでお店のおばさんに「あなた英語は話すの？」と英語で聞かれたので「はい！」と答えたところ「私は話さないの」と返されそのままドイツ語で対応されてよく分からないまま与えられたものを食べたのはセンセーショナルな経験でした。どうして聞いたんだろう…という気持ちもありましたが、（これはドイツ語できなくちゃやばいぞ、食べたいものが食べられないぞ）という気持ちになったのです。3週間くらいあったインテンシブ語学研修コースをあけてみれば、全く聞こえなかったドイツ語もわりと聞こえるようになり、思ったことを自由に話すことはまだできなくても、書いてあることは大体読めるようになりました。そのため、レストランやお店で注文をする程度のドイツ語はすぐ身につきましたし、ようするにこれは慣れだな、というように思いました。使えば覚える、あたりまえのことでした。ですので、これから理解できない言語の地に行かれる方はそんなに心配しなくて良いんじゃないかなと思います。モチベーションはもちろん必要ですが、過度に心配する必要もないな、という印象です。

最後に、せっかく留学に行かせてもらっているのだから勉強しないと、という高い志を持つ方々がほとんどでしょう。もちろん私もそのような意志を持って留学したうちの一人だと思っていますが、何も机に向かい文献を読んだりすることだけが勉強ではありません。その土地でしか得られないもの、経験できないこと、そのようなものに触れることも勉強だと私は思います。遠く離れた地で一人で暮らしていける、それも今後生きる上で自信に繋がるでしょう。日本語では話せないところで生活に必要な手続きをすることができる、それも自信につながるでしょう。具体的な勉強ももちろんですが、すべてをひっくるめて留学は貴重な経験です。つらいこともあれば楽しいこともあるでしょう。もし今、行こうか行くまいか迷っている人がいるとするならば、私はぜひ思い切って留学してみることをおすすめします。

ウィーン大学での交換留学を経て

英米文学・英語学専修　4年　森川美沙子
オーストリア ウィーン大学　（大学間派遣、派遣時　学部3年）

ウィーン大学で一年間、交換留学しました。非常に貴重な経験だったと、帰国して時が経つほど思います。長期休暇にドイツやチェコ、ハンガリー等近隣諸国をバスでほぼ一周するなど、本当に盛りだくさんな一年間でした。その中でも一番心に残っているのは、現地での友人達との出会いです。

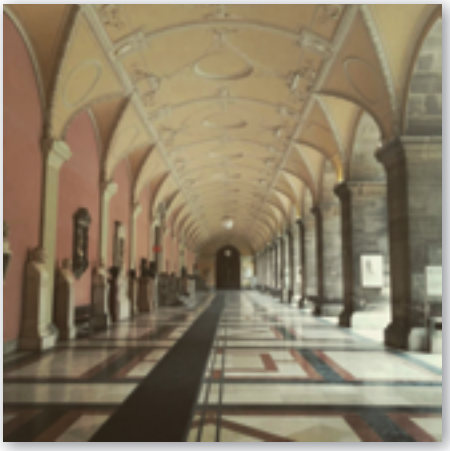
留学の目的・目標は、人によって様々だと思います。私の場合、一番は、国籍問わずたくさんの人と交流することでした。大学2年の時にカナダで短期留学した時に、外国語として英語を話す人同士、お互いの国のことをはじめ色々なことについて意見を交換出来たことに感動しました。その経験が心に残っていて、長期滞在できる交換留学では、外国語で、国籍も様々な人たちと、より深い会話をし、より深い関係を築きたいと考えるようになりました。

学部ではオーストリアやドイツからの学生、ドイツ語の語学コースでは世界各国からの留学生、日本語学科主催の語学交流会では日本語を学ぶオーストリアの学生等、様々な学生と交流でき、一年を通して予想以上の出会いに恵まれました。

特に、寮のルームメイトだったセルビア出身の女性との出会いが印象に残っています。2歳年上の彼女は、私の事を妹のようなものだと言ってくれ、毎晩のように一日に起きたことを報告しあい、お互いの国の歴史や性格について話しました。日本人ではありえないと思える程の根っからの温かさや明るさを持つ彼女と日々過ごし、自分自身の中で、上手く言葉に出来ないのですが、何かが変わった気がします。また、出身国や文化が違っても根本は、同じ人間なんだという事を、当たり前なのですが、実感しました。

今でも皆とは連絡を取り合っていますし、昨年の夏には日本へ訪ねて来てくれた子もいました。自分の気持ちに素直な皆から元気をもらい、また私の視野を広げてもくれました。これからも絆を大切にしていきたいと思っています。

ウィーン大学の中庭


中庭横の廊下

クリスマスツリー

図書館

寮で手巻き寿司パーティー

Studying at Osaka University

特別聴講学生 日本語学 Anna Hoffmann
交換留学生 （ドイツ ハイデルベルク大学）

This is already my second time to study at Osaka University. During the academic term of 2015-2016, I had been studying at the Center for Japanese Language and Culture (CJLC) on Minoh Campus and even though I made many great experiences there, I was initially hesitant to return. I simply could not imagine to spend another year in the vicinity of Osaka without all my international friends, that I made during my first stay, around. At the same time, being determined to come back to Japan, I could not see myself studying anywhere else either. But before long, upon hearing from my German sempai how much they had grown academically and personally through their exchange at Osaka University's Graduate School of Letters, I made my decision. In retrospective, I am really glad about this.

From the very beginning, the staff of Osaka University's Graduate School of Letters was very supportive and helped me and my fellow colleagues from Heidelberg University to manage the administrative process. When we arrived, we were warmly welcomed and there was not one single moment that we would feel out of place. Being quite different from my first experience at Osaka University, this time I attend my classes on Toyonaka Campus. I have been taking classes in English, Japanese and French, which enabled me to gain many new insights, inside and outside my original field of study. Taking classes taught in Japanese alongside regular students was definitely not an easy task at first. It took me a fair amount of time to cram vocabulary as well as kanji. The switch between these different languages in my daily life as well turned out to be quite challenging but I am confident that I will profit from these things a lot in the long term. At least regarding classes taught in Japanese, I can already see the improvements step by step.

Apart from the academic environment, I enjoy the huge living standard of Osaka. Since I am living in the city of Minoh, I often find myself strolling in Minoh's national park that is famous for its waterfall and that is just a short walk away from my apartment. Especially during

autumn, I liked viewing the mountainous scenery with its lushly colored maple trees. But during other seasons as well, the path leading up to the waterfall is worth a stroll, let alone the opportunity to buy there momiji tempura, fried maple leaves, Minoh's local specialty.

A trip to central Osaka, too, is always worth it. Being a 30 minute train ride away, central Osaka offers urban flair, that stands in contrast with Minoh and the its other surrounding cities. Since it is located in close proximity to other cities such as Kyoto, Nara and Kobe, I am planning on taking more advantage of this during the spring term, when, hopefully, the weather will allow for outdoor activities again and the cherry blossom season will begin.

着物教室にて

編集・発行 文学部・文学研究科 国際連携室
宇野田尚哉・チャンエイミー・内田多鶴
発 行 日 2019年3月31日
〒560-8532 豊中市待兼山町 1 - 5